



新会長に立川敬二氏

東京岐阜県人会理事会が選出

東京岐阜県人会の本年度第一回理事・評議員・監事合同会議（正規の「理事会」でもある）が去る8月26日千代田区平河町の都道府県会館・会議室で開催されました。

会議では、加藤会長から、「在任4年になる。来年110周年を迎える東京岐阜県人会を次の人に

託したい。」旨の辞意表明があり、後任の会長として副会長の立川敬二氏が推薦され、満場一致で選出されました。これに伴い加藤前会長は、名誉会長に選任されるとともに幹事長には、小林久三氏が再任され、それぞれ就任いたしました。

新会長インタビュー

立川新会長は、旧電電公社に入られ、現在は宇宙航空研究開発機構のトップ。そのどちらも最先端の人類の夢を追いかける仕事。

新会長ご就任に当たり、そのあたりの話しを交えながら、ご自身の生い立ちから現在までの活躍ぶりをインタビューしました。ダークグレーのスーツに身を包んで端正ないでたちの立川さんが現れるとそのクールな顔立ちと相まって一瞬緊張させられました。しかし、話し始めると少年のような人懐っこい笑顔が場の空気を一気に和らげ、丁寧に答えていただいたこともあって中身のあるインタビューとなりました。

Index

ごあいさつ	3
新会長選出・インタビュー	4
会長を辞するにあたって	7
県人会 夏のイベント	8
青年部活動報告	12
委員会活動報告	13
次回総会のお知らせ	13
会員パブリシティー	14
衣は人なり	
清水とき ～「きもの」とともに70年～	

会員投稿	18
『寡黙の偉人・杉原千畝』金尾直美	18
『自分たちで気づこう「ふるさと」のよさ』小山紘徳	19
『ふるさとが育んでくれた平和への思い』下垣真希	21
『コミュニケーション アイソレーション』橋本みずき	22
『届けたいアコーディオンの音色』山路浅子	23
ぎふ清流国体・ぎふ清流大会開催まであと1年！	24
岐阜県では今	28
岐阜県観光イベントカレンダー	29
岐阜県ゆかりの店紹介	30
お知らせ	31

「青春は？」

Q 大垣北高のご卒業ですね。どんな生徒さんでしたか？

「大垣駅の近くで生まれ育ちましたが、高校卒業までは岐阜へ行くこと



三羽ガラス (後列右が立川氏)



報道クラブ 大垣市立東中学校 報道クラブの仲間と。(後列右端が立川氏)

「電電公社時代」

Q その後電電公社へ入られたのですか。

「当時の東大の電気工学科の卒業生の就職は、引手あまたの時代で、30名の就職志望者に1,000社の求人があったのです。自分はいろいろなことを経験できそうな通信の電電公社を選びました。当時、電電では理科系の学卒新入社員の配属を6つの分野に分け、私はそのうちの一番少数の無線部門に配属されました。このことが思いがけないその後のチャンスにつながりました。」

「当時の東大の電気工学科の卒業生の就職は、引手あまたの時代で、30名の就職志望者に1,000社の求人があったのです。自分はいろいろなことを経験できそうな通信の電電公社を選びました。当時、電電では理科系の学卒新入社員の配属を6つの分野に分け、私はそのうちの一番少数の無線部門に配属されました。このことが思いがけないその後のチャンスにつながりました。」

がっていったように思います。当時の技術水準や予算構成では六つの中では線路や土木に圧倒的に多くの予算が配分されました。機械(交換機)は技術の進展が早く、伝送(ケーブル)は学術的にも先端にいたし、電信は公社の中心的事業の一つでした。無線は固定通信が主体でしたが、一般社会で競争していました。

私は研究開発など本格的な技術の仕事をする6年間やっただけで、ジェネラルマネージャーとして育成されることになり、千葉や四国など地方支局のマネジメントの業務を6年続けることになったのです。そのあとで、『技術者も経営を学ぶべきだ』との当時の総裁の発案でマサチューセッツ工科大学ビジネススクールに派遣され、勉強する機会につながりました。自分の会社生活を振り返ってこの留学がその後の進路の転換点になったのではないかと感じています。また、この経験がその後の海外との仕事に生きて来たのです。」

「ついでに人生」

Q 留学から帰られていろいろ経営企画に携われたのですか。

「アメリカから帰ると当時の北原副総裁のブレイクになり公社のビ



野口宇宙飛行士が搭乗するソユーズロケットを前に。(バイコヌール射場)

ジョンズ・ホプキンス大学に参加することになりました。ここでは、『ポスト・テレフォン』を考え、『民営化』をどう実現していくかが懸案でした。制度、機構を考える民営化チームの次長として法案、組織などを作り、後の民営化の事業部制度の導入の準備を進めていったのです。この事業部制度が導入されれば従来の縦割りからの脱却という非常に大きな変革につながっていきます。1985年に民営化が実現しNTTになりましたが、この事業部制によって、NTTの事業を大きく電話事業、専用線事業、データ通信事業、移動通信事業、画像事業、電報事業などの事業部に分けることになりました。後にNTT



宇宙ステーションへの補給機を打ち上げるH-IIBロケットを前に、JAXAスタッフと。
【2009年9月、種子島宇宙センター】

期ビジョンを作り上げました。考えてみると私は『ついでに人生だつた』とつくづく思います。私がJAXAの理事長になったとき、わたしは何も分からないけれど『ついていける人』だから安心してくれと職員に言ったものです。ロケットの発射も一度も失敗しないで続いていますよ(笑)。」

「JAXAの仕事を通じて」

Q JAXAはこれからどんなことを目標にしていくのでしょうか？

Tの分割論が議論される中で事業部ごとデータ通信会社、NTT移動通信網(後のドコモ)などを次々と分離独立させていくことになりました。1989年、二度目の米国生活から戻り、これからのNTTの『VI&P』という名の経営ビジョンづくりに取り組むことになったのですが、振り返れば人からはビジョン屋といわれるぐらいビジョン作りに携わりましたね。NTTドコモの社長になりMAGIC、そしてJAXAではJAXA2025という20年間の長

「日本は宇宙探査ができる数少ない国です。これをもっと進めるべきです。まずは宇宙ステーション、次に月そして火星、金星へと広がっていきます。向こう30年間ぐらいは金もうけにはならないと思いますが、民需の比率を高めてゆきたい。また、有人ロケットをぜひやりたい。宇宙

で今行っているのは官の仕事です。測位観測、環境対策、災害対策みなそうです。今後民間がやれるのは例えば農林水産関連で、稲作や小麦の作付け予測、宇宙からの魚群探知などがありません。」

Q これからの日本にとって有望な産業分野はどんなものがあると思われますか？

「宇宙産業と航空産業だと思います。宇宙産業は1兆円規模でまだまだ産業といえる規模になっていません。航空産業は3から4兆円ぐらい。電気通信は20兆円、パチンコ産業は30兆円。産業と呼ぶなら30兆円規模はないと。2050年頃までにはまず航空産業、次に宇宙産業をその規模にもっていくことを目指すべきだと思います。」

宇宙関係の企業には、三菱電機、NEC、三菱重工、IHIなど。地域的には名古屋にもあります。航空産業としては、川崎重工、三菱重工など。川崎重工は岐阜にあります。日本は中型旅客機、パーソナルな小型飛行機などが今後成長していくと思いますよ。」

「ひとこと」

Q 会長から岐阜出身の学生や後輩になにか一言あればお願いします。

「もっと岐阜から外へ出て活躍してほしい。それに、矛盾するようだが、岐阜は、外に出た人が帰ってくつろげる『癒しの土地作り』を考えて欲しい。若い人には、外に出てもっと岐阜のことを考える人になって欲しいと思います。」

ありがとうございました。

